

*8月に (AU MOIS D' AOUT)



緑が一番濃い時節、強い陽光に木陰が涼しく、程よい風があって「いつもこんな天気なら夏も好いね。」という日が続いています。しかし“一天俄かにかき曇り、、、”突然の雷と雨、時にピンポン玉程もある雷 (la grêle) に見舞われ、葡萄や、せっかく実った果物・野菜が叩かれて被害続出、ワインの出来も心配されます。7月末日から8月初旬にかけては、こちらの方が“シャッセ・クロワゼ” (les chassés-croisés) と呼ぶ時期で、ヴァカンスを終えて帰って来る人達と、これからヴァカンスに出掛ける人達で交通機関は上下線どれも超満員、空港や駅の賑やかなこと、高速道路は渋滞、、、毎年のことながら大騒動です。しかし、労働組合も夏休み、さすがにデモもストもやりませんから、幸いと云うべきでしょうか。駅頭で無料配布の新聞も無く、普段は150頁程もある週刊誌 L' EXPRESS も100頁位に薄くなり、、、夏休みが続きます。花と云えば、赤味を帯びた紫陽花 (l' hortensia) が咲き残り、紅いゼラニウム (le géranium) がバルコンや窓辺を飾る以外は、庭に咲く色とりどりの薔薇 (la rose) くらい、立派な門構えの家には、肉厚で一寸暑そうな感じの黄色がかった赤いノウゼンカズラ (le jasmin-trompette chinois (?))、そう、花は違いますが、ミモザに似たネムの木 (l' arbre de soie) も夏を彩ります。南仏の友人からは夾竹桃 (le laurier-rose) やブーゲンベリア (le bougainvillier) の花が今盛りと伝えてきました。日本からの便りでは「熱中症」という単語が行き交い、自分が気付かぬうちに陥りがちな脱水症状を「かくれ脱水」と呼んで、水分を十分に摂る様に注意喚起し、日本気象協会が8月は太平洋高気圧の勢力が強くなり、西日本を中心に5年連続の猛暑となる可能性大と予測しているそうです。

「恐竜は骨しかなくて涼しそう」(小学校2年生内田蓮さんの作品、「こども歳時記」より)

*熊のバルー

(L' OURS BALOU)

スペインとの国境ピレネー山脈の熊 (les ours pyrénéens) の絶滅を防ぐ為に 2006 年にスロヴェニア (la Slovénie) から 4 才の熊が連れて来られ、“バルー” と名付けられて山中に放たれました。その後 2008 年にはイノシシと間違えられて狩人に打たれて負傷 (il avait été blessé par un chasseur qui l' avait confondu avec un sanglier) しているのが発見されて手当てを受け、2010 年には恋人探しの旅に出て (Balou sort de son trou pour sa douce)、ナルボンヌ (Narbonne) 近く迄行き、恋人に巡り会うこともなく、海岸に出て諦め、もと来た道を引き返して自分の穴に戻っていることが観測され、話題に上がりました。(小紙 2010 年 6 月 6 日付第 37 号) これ程遠方へ旅することは極めて稀れな事と云われ、その為可哀想なバルーは 120kg の身体



も痩せ細ったそうです。そして山の反対側のアリエージュ (Ariège) にお相手を見つけてからは、2 匹の仔熊に恵まれたのですが、今年の 6 月にオート・ガロンヌ (Haute-Garonne) の高い崖から落ちて死んでいるのが見付かりました。

*2006 年に山中に放たれた際のバルー (上)

*ショーヴェの洞窟 (LA GROTTTE CHAUVET)

去る 6 月にカタールのドーハ (Doha (Qatar)) で開かれたユネスコの世界遺産委員会は、群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」を世界文化遺産に登録する事を決めました。1872 年 (明治 5 年) 生糸の品質向上と増産を目指して、フランスの技術を導入しつつ、独自に発展させた養蚕技術と組み合わせて大量生産を実現、絹の大衆化に貢献したことを認められたものです。フランスについては 38 番目の世界遺産 (le patrimoine mondial) として「ショーヴェの洞窟」が認定されました。1994 年に 3 人の洞窟探検家 (les spéléologues) がアルデーシュ地方ヴァロン・ポン・ダルク (Vallon-Pont-d' Arc (Ardèche)) の洞窟で見つけた熊、サイ、ライオン、ヒョウ (こんな動物がその辺りにも居たのでしょうか、、、) 野牛、馬など 14 種の動物の頭や顔など 1000 に近い色付きのデッサンは、その後の調査により、有名なラスコーの洞窟 (Lascaux) の 2 倍も古い今から 36 000 年前に描かれたものと推定されました。となれば“人類最初の文化的な行為” (le premier acte culturel d' Homo sapiens) であり、

“人間が描いた世界最古の絵画” (les plus vieilles peintures du monde) となり、発見者の一人ジャン・マリー・ショーヴェの名前を取って“ショーヴェの洞窟” と名付けたものです。この“先史時代の洞窟芸術の殿堂” (cathédrale de l' art pariétal) は、腐食や破損を避ける為、



洞窟を閉鎖してアクセスを禁止しましたが、この洞窟から 7km の場所に、全く同じ条件でのレプリカを現在建設中で、2015 年の 4 月には一般公開の予定です。(Le site a été fermé au public afin d' en garantir la conservation,mais, la grotte poss é dera une r éplique situ ée à 7 km de l' originale. L' ouverture de la r éplique est pr évue en avril 2015.)

* “自由の女神像” はメイド・イン・フランス (LA STATUE DE LA LIBERTE EST MADE IN FRANCE)

ニューヨークに立つ “自由の女神像” はアメリカの独立宣言 (1776) 100 年の記念にフランスが贈ったもの。(C' est un cadeau de la France aux Etats-Unis à l' occasion du centenaire de la Déclaration d' indépendance américaine.) 1865 年に計画され、1871 年アルザス地方コルマルの彫刻家バルトルディ (Auguste Bartholdi (1834-1904)) に制作が一任されましたが、技術者エッフェル (Gustave Eiffel (1832-1923)) に鉄の骨組みの設計を依頼して協力を求めました。エッフェルは大西洋の強風にも耐え得る構造の鉄塔状の骨組みを考案しました。(Il imagine en pylône, capable de résister aux vents de l' Atlantique) 1876 年にはトーチを掲げた右手が完成、独立宣言 100 年記念にフィラデルフィアで開催中の万国博に展示、1878 年には冠を付けた頭部が出来上がり、パリの万国博に展示・紹介されました。1884 年礎石 (la première pierre) が置かれ、続いて台座 (le piedestal) が造られましたが、いずれも石材はフランスから運んだそうです。そして 1885 年、350 個に分解された像は 214 箱に納められて軍艦 “イゼール” 号 (la frégate « l' Isère ») にてニューヨークへ運ばれました。像の高さ 46m05、台座を入れると 93m、鉄骨の重さは 125 トン、使った銅の重さ (poids du cuivre utilisé) は 31 トン、鉄骨を銅で覆ったような “自由の女神像” は、1886 年、独立宣言 100 年記念よりも更に 10 年遅れてニューヨークのリバティ島に立ちました。

(ルーヴルにあるドラクロワの “民衆を率いる自由の女神” (La Liberté conduisant le peuple (Delacroix) (1830)) にせよ、ニューヨークの “自由の女神” にせよ、日本人は “女神” が好きだね、、、(?) とは、あるフランス人の友人の言葉です。そう云われてみると、フランス語の la Liberté という単語に 「神」 はありませんね、、、(??))



※こちらはパリのセーヌ川に浮かぶ自由の女神像

2014 年 8 月 3 日 Sainte Lydie 日の出 06 時 26 ・ 日の入 21 時 26 気温 : パリ朝夕 16°C ・ 日中 25°C曇天、ニース 20°C ・ 25°C曇天、ストラスブール 16°C ・ 24°C曇天 お暑い中、どうぞご自愛の程を、(菅)